

西表島の鳥類について

嵩原建二¹⁾・岡村麻生²⁾・比嘉邦昭¹⁾・山崎仁也³⁾

Birds of Iriomote Is. in the Yaeyama Islands

Kenji TAKEHARA¹⁾, Mao OKAMURA²⁾, Kuniaki HIGA¹⁾, Jinya YAMAZAKI³⁾

はじめに

西表島は石垣島の西方、北緯24° 20′ 00″、東経123° 48′ 7″ に位置し、沖縄県内では、沖縄島に次ぐ、島面積が289km²の大きな島である。

島の地質は、概ね八重山層群とされる新生代第三紀中新世前記の砂岩層からなり、その一部には挟炭層を含む。また、島の東部と北部の一部に古生代の安山岩が分布する。さらに、島東部の大原地区や島北西部の上原地区には、隆起サンゴ礁でできた比較的新しい琉球石灰岩地が所在する (神谷1984)。

島は複雑な地形をなし、古見岳 (469.7m) やテドウ岳 (441m)、波照間森岳 (447.4m) などの起伏に富んだ山地域や丘陵地が見られる。これらの山地域からは、県内で最も長い河川とされる浦内川をはじめ、仲間川や仲良川などの大きな河川が海岸に注いでいる。

植生については、日本の暖帯林との共通の優占種をもつことから、植生単位上のヤブツバキクラスに含まれ、山地部の植生はその大部分がスタジイやオキナワウラジロガシを中心とする亜熱帯性常緑広葉樹林に被われている (宮城 1984)。海岸低地には、海浜植生や海岸林、石灰岩林が見られ、河川沿いの汽水域にはヤエヤマヒルギやオヒルギなどを中心としたマングローブ林が見られる。

島東部には大原や大富、南風見、古見などの集落があり、島西部には浦内、上原、住吉、祖納、千立などの集落が海岸近くに所在し、人口は2,224人

(2011年) である。

鳥類は自然界の中ではその食物連鎖の中で、上位に位置する生物であり、鳥類の記録を集積し、その地域の鳥類相を把握することは、その地域の環境の善し悪しを図る間接的な「モノサシ」、つまり「環境指標生物」としても有効である。そして、長期的に見れば、その地域の鳥類相の変遷を理解することができ、さらにその地域に生息する鳥類の生息状況を把握することで、鳥類の保護だけでなく、その地域の自然環境を理解し、その保全に寄与することができる基礎資料となるものでもある。

筆者らはこれまでの調査記録をもとに、現地調査や環境省西表野生生物保護センターに傷病鳥として保護された記録、その他島を訪れるバードウォッチャーなどから得られた鳥類情報等をまとめ、最新の鳥類目録作成を試みた。本報告が西表島及びその周辺地域における鳥類の生息状況を理解し、その保護や保全等に寄与する資料として利用されることがあれば幸いである。

本報告を行うに当たり、文献の収集やまとめ方に有益な助言をいただいた元沖縄大学の中村和雄博士、東海大学沖縄地域研究所の河野裕美氏、貴重な野鳥情報をいただいた沖縄野鳥研究会の山城博明氏、八重山野鳥の会の本若博次氏と本成尚氏、西表エコツーリズム協会の伊谷玄氏、西表在住の庄山守氏、鳥類の古い文献収集に協力していただいた田端裕氏等に厚く感謝申しあげる。

1) 沖縄野鳥研究会 〒904-0314 沖縄県中頭郡読谷村古堅74-10

74-10, Furugen, Yomitan-son, Nakagami-gun, Okinawa 904-0314, Japan

2) 元環境省西表島野生生物保護センター 〒907-1432 沖縄県八重山郡竹富町古見

Komi, Taketomi-cho, Yaeyama-gun, Okinawa 907-1432, Japan

3) 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1.

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, Omoromachi 3-1-1, Naha City, Okinawa Prefecture 900-0006, Japan



図1 西表島

調査方法

筆者らは、不定期に島に滞在し特にコースや時間帯は定めず、島東部の南風見浜から島西部の白浜まで、道路を利用できる区間などで車両を利用して使って走り回り、農耕地や水田、河川沿い、湿地、海岸、牧場、集落周辺、林道沿いなどの環境で現地調査を行った。その際には、著者の一人である比嘉によって、鳥類種の確認地を明確にするため、国土地理院によって全国を区分した3次元メッシュ区分図にしたがい、そのメッシュコードも記入するように努めた。また、環境省西表野生生物保護センターの「生きものデータベース」に登録された傷病鳥として保護された鳥類の記録や、島を訪れるバードウォッチャーからの観察記録、さらには新聞記事等で報道された記録等を可能な限り集積した。島に滞在する著者については、特にコースを定めず、不定期に島内を車両等で走り回り、目撃等で確認される鳥類を記録することに努めた。また、隣接する仲の

神島や鳩間島、嘉弥真島、鳩離島などの周辺離島や小島、岩礁等の観察記録も一部加えた。

調査結果と考察

調査の結果、巻末の「西表島鳥類目録 (2013)」に示したように、これまでの観察記録を総合すると、西表島及びその周辺離島などで21目62科308種の鳥類が記録されていることになる。この目録を以下のようにおおよその生息状況に応じた渡り区分と分類学的な目別区分とに分けて概観し、他の島等との比較検討を行った。

1. 渡り (生息状況) での区分

確認された鳥類を日本鳥学会 (2012) の生息状況区分に従って、そのおおよその生息状況や見られる時期に応じて区分 (渡り区分) すると、渡りを行わない留鳥 (RB) が36種 (表1) で、夏鳥 (MBに相当) が12種、旅鳥 (PV) や冬鳥 (WV) が149種であっ

た(図2)。また隣接する台湾や東南アジアや中国大陸などから迷行し記録される迷鳥(IV及びAVに相当)が111種見られた。

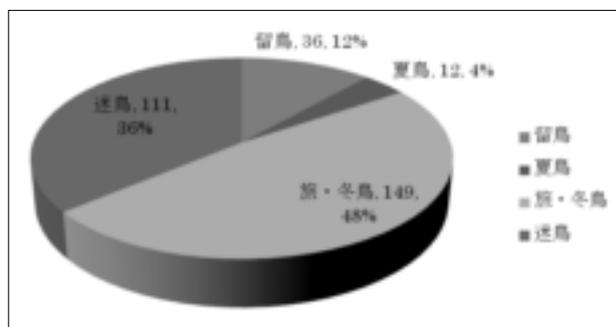


図2 西表島における渡り区分

以下に留鳥と渡り鳥に分けて、その生息現状や渡り鳥の観察記録の中から特筆すべき種に限定してまとめた。

(1) 留鳥の生息状況

西表島における留鳥については、表1に示したとおりである。現在でも生息確認できる種に、これまでの調査等で繁殖記録のある種を加味すると、36種が該当するものと考えられる。

西表島を含む八重山諸島には、山階(1955)らによって言及され、鳥類の生息状況から生物地理学上、宮古諸島と沖縄諸島の間想定されている「蜂須賀線」以南の東洋区系の鳥類として、カンムリワシやズグロミゾゴイ、ムラサキサギ、オオクイナ、キンバトの5種が生息している。この中で八重山諸島に現在北限的に生息しているのはカンムリワシであり、他の4種については最近宮古諸島まで分布域が広がってきた(嵩原 2008、久貝ら 2010)。さらにこの中でオオクイナは「蜂須賀線」を超えて沖縄島まで分布域が広がってきている(嵩原 1986)。

なお、最近の琉球列島における生物地理に関する調査では、「蜂須賀線」はみかけ上のもので、鳥類についても、トカラ海裂に想定されている「渡瀬線」が重要であるとの見解もみられる(松岡 2003)。

西表島を隣接する石垣島と比較すると、留鳥の大部分はほぼ同じ種(亜種)が生息しているが、西表島にはキツキ類のオリコゲラ(固有亜種)と、最近固有の亜種として再分類されたコトラツグミが生息していることが鳥類相の大きな違いであろう。なお、留鳥の中では、両島に分布するとされるリュウ

ウキュウガモ(亜種)については、日本鳥学会(2012)でも掲載しているように50年間観察記録がなく、その生息現状は不明である。さらにBrazil(2009)は、カンムリワシを独立した固有種として扱っており、これに従うと本種は八重山諸島固有種となる。したがって、ヤンバルクイナやノグチゲラと同様、沖縄の固有種が1種増えたことになる。

以下に、生息実態が現在把握されていない種を中心に、その他特筆すべき種を含め言及した。

①コトラツグミ *Zoothera dauma iriomotensis*

本亜種コトラツグミは1921年11月6日に西表島で折居彪二郎氏によって採集され、その後Kuroda(1925)によって、トラツグミの亜種 *Zoothera dauma horstfuldi* として報告されている。本亜種については、最近再検討が加えられ、西表島に固有な亜種 *Z. d. iriomotensis* として再記載されている(Nishiumi and Morioka 2009)。日本鳥学会(2012)編の改訂第7版の鳥類目録も同亜種名を採用している。しかしながら、八重山野鳥の会(1983)や沖縄野鳥研究会(2000)も指摘しているように、繁殖期である夏季の観察記録が乏しく、繁殖個体群が形成されている状況は確認されず、留鳥としての生息状況は不明であるように思われる。おそらく、島固有の亜種としての生息を維持しているのであれば、しかるべき個体群が維持されていなくてはならないものと思われるが、そうした意味で、営巣例を含め生息個体の観察記録が全くない状況が続いている現状は異例であろう。したがって、これは今後詳細な繁殖期における生息実態調査が必要と思われる。

②リュウキュウガモ *Dendrocygna javanica*

日本鳥学会(2000)による「日本産鳥類目録第6版」では、琉球諸島で留鳥として繁殖(RB)していると扱い、沖縄島や石垣島、西表島、黒島に生息するとしているが、最近の確認例は見られない。このことから最近刊行された改訂第7版(日本鳥学会 2012)では、50年以上、生息確認がされていない種として掲載されている。したがって、その生息現状については、今後継続した詳細な調査が必要であろうと思われる。

③リュウキュウキビタキ *Ficedula owstoni*

本種(亜種)は、日本鳥学会(2000)による

「日本産鳥類目録改訂第6版」では、キビタキの亜種 *F. n. owstoni* として扱われ、最新の「改訂第7版」(日本鳥学会 2012)でもこれが踏襲されている。しかしながら、Brazil (2009) は、独立種 *F. owstoni* として扱っている。これに従えば、琉球列島の固有種となる。したがって、本種についてはその区分に混乱が見られる。今後、南西諸島の屋久島から八重山諸島まで留鳥として生息分布する本種(あるいは亜種)については、島ごとにその再検討も必要であろうと思われる。

④オリエヤマガラ *Poecile varius olivaceus*

本亜種は種ヤマガラの固有亜種として西表島と石垣島に留鳥として生息する。西表島ではごく普通に生息していることから、目撃情報も特に取り上げて報告することがないことで、その確認地の情報は少ない。本亜種は森林地域であれば島全体に生息しているものと思われる。

⑤オリエコゲラ *Dendrocopos kizuki orii*

本亜種は前述した亜種オリエヤマガラとは少し異なり、西表島のみ固有亜種である。しかしながら、オリエヤマガラ同様に西表島ではごく普通に生息していることから、目撃情報も特に取り上げて報告することがないことで、その確認地の情報は少ない。本亜種は山地から海岸林まで普通に生息しているが、亜種リュウキュウコゲラに比べ、その生息面積は少ないものと思われ、貴重な地域個体群が消失しないよう保護すべき種として、沖縄県レッドデータブック(沖縄県自然保護課 2005)では「絶滅危惧種1B類」とより絶滅が危惧されるランクの高い位置に掲載されている。

⑥リュウキュウツバメ *Hirundo tahitica*

本種は県内では沖縄諸島や宮古諸島で留鳥として生息しているが、八重山諸島では繁殖確認されず、漂鳥や旅鳥として少数が移動してくることでの生息確認であった。西表島でも1990年代後半には春と秋に少数が目撃されるのみであったが、2010年には中野で初めて繁殖が確認された。したがって、留鳥としての生息が確認された。なお、隣接する石垣島の伊原間でも最近繁殖が記録されている(本成尚氏私信)。

<表1. 西表島の留鳥(36種)>

種名	本調査で確認	備考
リュウキュウヨシゴイ	○	
ズグロミゾゴイ	○	国内北限種
クロサギ	○	
ゴイサギ	○	通年見られる
ムラサキサギ	○	
リュウキュウガモ		生息現状不明(絶滅?)
カルガモ	○	
リュウキュウツミ	○	
カワセミ	○	
カンムリワシ	○	固有種とする考え方もある
ミフウズラ	○	
オオクイナ	○	
リュウキュウヒクイナ	○	琉球列島(奄美以南)固有亜種
シロハラクイナ	○	
バン	○	
ヨナクニカラスバト	○	宮古諸島以南固有亜種
リュウキュウキジバト	○	琉球列島固有亜種
キンバト	○	
チュウダイズアカアオバト	○	八重山諸島固有亜種
リュウキュウコノハズク	○	
リュウキュウアオバズク	○	
リュウキュウオオコノハズク		一部は冬鳥?
オリエコゲラ	○	西表島固有亜種
リュウキュウツバメ	○	中野で繁殖確認
リュウキュウサンショウクイ	○	琉球列島固有種とする考えもある
シロガシラ	○	
イシガキヒヨドリ	○	八重山諸島固有亜種
イソヒヨドリ	○	
コトラツグミ		固有亜種・生息実態不明
セッカ	○	
リュウキュウキビタキ	○	琉球列島固有種とする考えもある
オリエヤマガラ	○	西表・石垣島固有亜種
イシガキシジウカラ	○	西表・石垣島固有亜種
リュウキュウメジロ	○	琉球列島(奄美以南)固有亜種
スズメ	○	
オサハシブトガラス	○	西表・石垣島固有亜種

(2) 渡り鳥

西表島及びその周辺離島に飛来する夏鳥や旅鳥、冬鳥(迷鳥含む)について、その希少な記録等特筆すべき種に限定して述べる。

1) 夏鳥

夏鳥は陸鳥では県内各地に飛来するアカショウビ

ンとサンコウチョウ、ツバメチドリの3種が西表島でも確認された。海洋性の夏鳥では県内各地に飛来するカモメ科のベニアジサシやエリグロアジサシなどの他、ミズナギドリ類のアナドリ、カツオドリ科のカツオドリなど12種が確認された。しかしながら、これらの大部分は西表島そのものでは繁殖せず、周辺離島の一つである仲の神島や周辺の小島、岩礁等で繁殖活動をしているアジサシ類やカツオドリ類、ミズナギドリ類が西表島周辺海域で確認されたり、保護されたりして記録されたものである。

こうした海洋性の夏鳥については、例えば、仲の神島における高良（1970）によるセグロアジサシやオオミズナギドリ、クロアジサシ、カツオドリなどの繁殖に関する調査や、Mizutani and Kohno（2008）によるエリグロアジサシやベニアジサシの西表島や石垣島などを含む周辺離島、岩礁における繁殖分布地などの研究が数多くあることから、本報告では確認記録のみに留めた。

なお、国内には夏鳥として飛来し、繁殖例も見られるネットアイチョウ科やカモメ科の一部の鳥類については、八重山諸島での繁殖例が見られないことから、本報告では八重山諸島を通過する旅鳥や迷行してくる迷鳥として扱った種があることに留意されたい。

2) 旅鳥や冬鳥及び迷鳥

沖縄県（特に八重山諸島）は、台湾や東南アジア、中国大陸に近く、ここから迷行してくる鳥類（迷鳥）の確認例が多い。西表島では過去にモリツバメ（1973年4月9日：野鳥326）やヒガシメンフクロウ（1975年5月14日：福地 1983）など国内初確認例も見られる。最近ではハイイロオウチュウ（二階堂 1999）、ナンヨウショウビンやアオショウビン（沖縄野鳥研究会 2010）などの記録も見られる。こうした鳥類は日本鳥学会（2012）の改訂第7版では、生息状況区分で、IV（irregular visitor）やAV（accidental visitor）と区分され、迷鳥の扱いを受けている。その基準に沿うと、西表島で確認された鳥類の内、111種の鳥類が迷鳥として扱われる。

本調査でもこれまでに西表島で記録されていない種が確認された。そうした迷鳥の中から最近の記録として特筆すべき種に限定して取り上げ、以下にまとめた。

なお、鈴木ら（2011）は、2010年2月～3月の調査で、八重山諸島の石垣島及び西表島などからハシボソガラスを合計22個体確認している。しかしながら、県内では本種はごく稀な冬鳥であり、そのほとんどの観察例は不定期でしかも1個体の場合が多い。このことから1期間で22個体もの越冬個体が飛来することは到底考えられない。おそらく、亜種オサハシブトガラスを誤認した可能性が考えられる。したがって、西表島の記録からは本種を除外した。同様に武井（1975）の調査でも西表島でハシボソガラスの記録が見られるが、これも同様の可能性が考えられる。

さらに誤認されやすい種としては、武井（1975）ではウズラが記録されているが、ウズラは県内ではごく稀な冬鳥と思われ、姿を見る機会は極めてまれであるように思われる。したがって、これは留鳥のミフウズラを誤認しやすいことが考えられる。さらに、同様に武井（1975）ではチゴモズの記録が見られるが、ほぼ同じ時期に調査した早稲田大学野鳥同好会（1975）では、このチゴモズの確認記録を後日すべて削除している。これは亜種シマアカモズの若鳥や雌等を誤認した可能性が考えられる。他にもカラシラサギと県内に多く見られるクロサギの白色型は混同しやすいことが考えられる。したがって、これら誤認しやすい鳥類においては、同定の根拠となる記述や写真撮影等、第三者によっても検証可能である明確な観察記録の表記やその公表（報告）に留意することが望まれる。

以下に、記録的に興味深い特筆すべき鳥類を取り上げた。

①アオハライソヒヨドリ *Monticola solitarius pandoo*
イソヒヨドリの亜種で、2009年4月1日にホネラ付近での確認例が見られる。県内では1990年3月11日（沖縄野鳥研究会 2010）に与那国島で観察例があり、その後再び2002年4月に与那国島南牧場で2個体が確認されている（宇山 2011）。与那国島では他に3例の記録が見られる（宇山 2011）。また、隣接する石垣島でも2010年2月に観察例が知られている（沖縄野鳥研究会 2010）。

日本鳥学会（2012）によると、本亜種はごくまれな迷鳥（AV）として飛来し、1988年5月にトカラ列島、1990年3月に与那国島の2例が知られて

いる。したがって、前述したように、県内での確認例が増加してきている傾向が見られ、西表島における確認例は県内における新たな確認地である。

②コシジロイソヒヨドリ *Monticola saxatilis*

1997年9月20日に上原の西表わいるどふあーむ（ペンション）の屋根の上にとまっている雄1個体が確認されている。写真撮影はされていないが、この記録が県内初記録と思われる。しかしながら、第三者が検証可能な証拠となる詳細な同定記述等の観察記録が提供できなかった。

なお、本種は国内ではきわめて稀な迷鳥として飛来し、1982年5月31日に静岡県春野で雄1個体の記録が知られている（五百沢ら2000）。日本鳥学会（2012）による改訂第7版では、その掲載が検討中の種として扱われ、目録への掲載はされていない。

③ソデグロヅル *Grus leucogeranus*

2008年11月24日から2009年4月18日までヨナラの水田に1個体が飛来し、越冬した。本種は国内でも迷鳥（AV）として扱われ、北海道から本州、九州、そして、沖縄での飛来記録が知られている（日本鳥学会 2012）。県内での記録は旧具志川市（現うるま市）で1969年11月、那覇市で1969年冬季の観察例が知られている。したがって、西表島における観察は、県内で3例目の観察記録と思われる。なお、県内では他に2011年12月には宮古諸島の池間島に1個体が飛来した例が見られる。

④カノコバト *Streptopelia chinensis*

2008年9月9日に祖納アーラ地区の水田で2個体観察された。本種はインド亜大陸のパキスタンから中国北西部、台湾、フィリピンなどに生息し、一部の東南アジア地域やオーストラリア、ニュージーランドなどには導入も見られる（Robson 2000）。本種の確認例は国内ではこれまで知られていない。隣国の台湾では市街地の公園でもごく普通に見られ、数も多い。したがって、台湾方面からの飛来の可能性が高いものと考えられ、国内初記録であろう。しかしながら、本種についても、第三者が検証可能な観察記録や写真撮影等を示すことができなかった。なお、本種についても、日本鳥学会（2012）による改訂第7版の目録では、検討中の種として掲載されている。

なお、西表島においては、ハト科では他に同様のごくまれな迷鳥であるベニバト *Streptopelia tranquebarica*、や国内初記録のクロアゴヒメアオバト *Ptilinopus leclancheri* の記録（菊池ら2008）も見られ、東南アジア等からの飛来種がいくつか確認されている。

⑤オニカクコウ *Eudynamis scolopacea*

本種は黒田（1971）により、1970年10月の西表島における秋季の鳥類調査中に鳴き声と姿の確認例がみられる。これが国内初記録であるが、確証に至っていないことで、日本産鳥類としては認められず日本鳥学会（2000）による「日本産鳥類目録改訂第6版」には掲載されていない。

最近県内では、与那国島で2005年4月から6月にかけて数多くの観察例が見られ、同年5月20日には雄成鳥3個体、雌2個体とその観察個体数も数多く観察されている（宇山 2011）。また、同年5月15日には与那国島樽舞地区で1個体が写真撮影されている（森河・森河 2008）。最近県外でも鹿児島県南さつま市金峰町において2006年7月に確認例が知られている（小園・所崎 2007）。

このことから、最新の鳥類目録である「日本産鳥類目録改訂第7版」（日本鳥学会 2012）には掲載され、公式に日本の鳥と認知された。しかしながら、国内で最初記録と思われる黒田（1971）による西表島からの記録まだ認知されておらず、同目録には確認地として西表島は入っていない。

本種はインドからマレー半島、スンダ列島、フィリピン、ニューギニア、マレーシア北部などまで広く生息し、インドや中国中・南部で繁殖する一部の個体は、冬季にスンダ列島などに移動するとされる（Robson 2000）。また、東南アジアでは一般的に留鳥であるが、その一部は繁殖のため、中国中部地域まで夏鳥として移動し、タイやマレーシア、シンガポールなどでは旅鳥であるとされる（Robson 2000）。また、西表島に近い台湾では、台北や高雄、屏東などで迷鳥としての飛来が知られている（台湾野鳥資訊社・日本野鳥の会編 1991）。

⑥バンケン *Centropus bengalensis*

西表島では2003年12月31日に豊原交流センターから製糖工場の間の路上にて交通事故死した個体が採集されている。同個体標本は剥製製作が行わ

れ、西表野生生物保護センターに展示所蔵されている。また、2004年2月12日には浦内カトゥラ水田で1個体の観察記録が知られ、西表島では2例の確認例が見られる。

県内では2001年3月13日に与那国島で初めて確認され、複数の観察者によって写真撮影されている(本若博次私信・沖縄野鳥研究会 2000)。これが国内初記録と思われるが、西表島の確認記録はその2例目と3例目となる。なお、与那国島では2004年4月に幼鳥1個体確認され(宇山 2011)、さらに同島で2006年9月23日にも確認例(森河・森河 2008) があるなど観察記録が増加している。

本種はインド南西部から北・北西部、中国南東部、台湾、大スンダ列島、フィリピンなどに広く生息し、中国に生息する個体は冬季に南に移動することが知られている(Robson 2000)。したがって、おそらく、県内で確認される個体は、隣接する生息地の台湾方面からの迷行個体が多いものと思われる。

⑦カンムリカッコウ *Clamator coromandus*

日本鳥学会(2000)によって、1990年に西表島からの記録が知られている。県内では1994年4月に沖縄島国頭村における保護例(嵩原ら 1995)があり、その後与那国島(2007年4月:森河 2008)、久米島(2008年5月:嵩原ら 2011)の確認例が見られる。

本種は国内には迷鳥(AV)として迷行し、1988年に石川県舳倉島における記録を初めとして、トカラ列島宝島(1974年5月)での記録が知られている(日本鳥学会 2012)。1993年5月には再び舳倉島で観察されている(五百沢ら 2000)。

本種はインドの北部や北西部から中国南部、東南アジアなどで広く繁殖し、冬季にはインド南部やスリランカ、フィリピン、大スンダ列島などに渡るとされる(Robson 2000)。

⑧ミドリカラスモドキ *Aplonis panayensis*

1998年3月27日に西表島浦内橋近くで1個体の観察例が知られ(嵩原ら 2000)、これが国内初記録とされている。五百沢ら(2000)ではその写真が掲載され、与那国島での記録(2003年4月)も報告されているが、本種の留鳥性の強いことや分布がかけ離れていることなどにより、カゴ抜けの

可能性もあることが指摘されている。このことから、日本鳥学会(2012)ではその改訂第7版では検討中の種として掲載されている。

西表島で確認された個体がかご抜けであるかどうかの確認は困難さを伴うが、その後与那国島ではしばしば目撃例が見られている(森河 2008)。Brazil(2009)によると、隣接する台湾では迷行してくることが知られている。したがって、国内にも野生種が迷行してくる可能性が十分考えられる。

2. 目別区分

確認された鳥類を分類区分の目で区分すると、大きな目であるスズメ目が23科106種、次いでチドリ目が11科75種、以下カモ目が1科23種、ペリカン目が3科21種、タカ目が2科16種、ツル目が2科10種、ハト目が1科7種、カッコウ目が1科6種などとなった。特に隣接する石垣島よりキツツキ目で1科1種(留鳥のオリイコゲラ)が生息していること大きな特徴である。渡り鳥では、フクロウ目でフクロウ科とメンフクロウ科の2科が確認されているが、メンフクロウ科は国内で唯一の記録であるヒガシメンフクロウの記録が西表島から知られていることによる(日本鳥学会 2012)。また、カッコウ目ではホトトギスなど普通に見られる鳥類以外に迷鳥のバンケンとカンムリカッコウ、オニカッコウの3種が記録され、その目における確認種数は多くなっている。

おわりに

西表島における鳥類相を明らかにしていくために、今後もこうした鳥類の記録は、情報を集積していく必要があるが、前述したようにコトラツグミやリュウキュウガモなど留鳥の一部について現在その生息状況に関する情報がまったくない状態が続いている。今後、これら特定の鳥類の詳細な調査、特に繁殖時期の調査が望まれる。また、冒頭でも書いたように、本土に生息するハシボソガラスやウズラなどについては、八重山諸島にも似たような種が生息していることから、誤認をさけるためにも、その観察については第3者が検証可能な観察記録の記述や写真撮影等と合わせたその公表が必要であろう。

さらに迷鳥として飛来するものと思われるカノコ

バトやコシジロイソヒヨドリなどについても、その観察に関する同定の証拠となるよう記述や写真等が提供できなかった。現在これらの種は、日本鳥学会(2012)による改訂第7版の目録では、検討中の種として掲載されている。したがって、こうした種の観察記録についても、第3者が検証できるような観察記録の記述とその公表等の蓄積が望まれる。そうすることで八重山諸島産の鳥類記録としてはもちろんのこと、日本産鳥類として認められ、日本産鳥類目録に掲載されることになるであろう。

引用文献

- Akira Mizutani and Hiroyoshi Kohno 2008. Breeding Status of Black-naped and Roseate Terns in the Yaeyama Islands, Ryukyus, Japan, in 2001. J. Yamashina Inst. Ornithol. 39:101-111.
- Craig Robson 2000. A field guide to the Birds of South-East Asia. New Holland Publishers. UK.504pp.
- 福地利供 1983. 西表島の珍鳥, 10周年記念誌. 八重山野鳥の会. 56-57.
- 二階堂善二 1999. ハイイロオウチュウ. Birder 4: 26. 文一総合出版.
- 小園卓馬・所崎聡 2007. 九州におけるオニカッコウの観察初記録. Strix Vol. 25:201-204.
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 2000. 日本の野鳥 550 「山野の野鳥」, 文一総合出版. 359pp.
- Isao Nishiumi and Hiroyuki Morioka 2009. A New Subspecies of *Zoothera dauma* (Aves, Turdidae) from Iriomotejima, Southern Rkyu kyus, with Comments on *Z.d.toratugumi*.
- 神谷厚昭 1984. 沖縄の地形・地質. 全国大会記念誌 「沖縄の生物」. 日本生物教育研究大会 「沖縄の生物」編集委員会. 1-14.
- Mark A. Brazil 1988. The First Record of Black-legged Kittiwaka *Rissa tridactyla* For Iriomote Island, Yaeyama J. Yamashina Inst. Ornith. 20:51.
- McWhirter. D. W., H. Ikenaga, H. Iozawa, M. Shoyama, and K. Takehara 1996. A Check-list of the Birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records. Bulletin of Okinawa Prefectural Museum 22:33-152.
- 水谷晃・村越未来・當真盛人・木村賢史・北野忠・河野裕美 2010. 西表島西部の湿地環境における水鳥類相とその季節的消長. 沖縄生物学会誌 48:121-139
- 宮城康一 1984. 西表島の植生, 全国大会記念誌 「沖縄の生物」. 日本生物教育研究大会 「沖縄の生物」編集委員会. 223-230.
- 森河貴子・森河隆 2008. 与那国(どなん)の野鳥を訪ねて. (自費出版). 26pp.
- 久貝勝盛・仲地邦博・金子進・砂川友広・砂川栄喜・山本晃 2010. 宮古諸島の鳥類, 宮古島市総合博物館紀要第14号, 91-114.
- 菊地正太郎・姚正得・外山茂・松本千枝子・西海功, 2008. クロアゴヒメアオバト *Ptilinopus leclancheri* の日本初記録および亜種 *P. l. taiwanus* についての検討. 山階鳥類学雑誌, 40:13-22.
- Kuroda, N., 1925. A contribution to the knowledge of the avifauna of the Riu Kiu Islands and the vicinity, Published by the author.
- 黒田長久 1971. 琉球の秋の鳥類調査(1970). 山階鳥研報(6) 3 (No.35): 54-79.
- 日本鳥学会 2000. 日本産鳥類目録改訂第6版. 345pp.
- 日本鳥学会 2012. 日本産鳥類目録改訂第7版. pp.
- 松岡廣繁 2003. 琉球列島の古鳥類相:化石記録から知る「ヤンバル」の価値. J. Foss. Res. 36:60-67
- 沖縄県編 2005. 沖縄の絶滅のおそれのある野生生物(改訂版). 沖縄県自然保護課. 那覇.
- 沖縄野鳥研究会編 1993. 改訂沖縄県の野鳥図鑑. 沖縄出版. 299pp.
- 沖縄野鳥研究会編 2000. 沖縄の野鳥図鑑. 新星出版.
- 沖縄野鳥研究会編 2010. 改訂版沖縄の野鳥図鑑. 新星出版.
- 鈴木賀与・鳥居憲親・桑原崇・寺田小百合・牛田博・前潟光弘・桜谷保之 2011. 沖縄島八重山群島で記録された鳥類, 近畿大学農学部紀要(44): 151-161.
- 台湾野鳥資訊社・日本野鳥の会編 1991. 台湾野鳥図鑑. 亜舎書有限公司. pp.427.
- 高良鉄夫 1970. 琉球中ノ神島の海鳥. 山階鳥研報6

(1/2) : 188-194

武井修一 1975. 石垣島・西表島鳥類目録. 福岡教育大学野鳥研究会. pp12.

高原建二 1986. 国頭郡本部町伊豆味でオオクイナ成鳥1, 野鳥473 : 35.

高原建二・久貝勝盛・瀬名波任 1995. 最近(1994年4月~1995年3月) 沖縄島及びその周辺離島で保護及び目撃された興味深い鳥類について. 沖縄県立博物館紀要第21号 : 209-211.

高原建二・池長裕史・金城道男・渡久地豊・金城輝男・庄山守 2000. 沖縄県内において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵資料により確認された興味深い鳥類の記録について. 沖縄県立博物館紀要26 : 27-46.

高原建二・砂川栄喜・大城亀信・柳澤紀夫・天野洋祐・土方秀行 2003. 沖縄県内における最近の希少な鳥類の記録について. 「南島文化」沖縄国際大学南島文化研究所紀要第25号 : 33-46.

高原建二・砂川栄喜・比嘉邦昭・宮城国太郎・高良淳司・金城輝男・仲地邦博・長嶺隆 2008. 沖縄県内における2003年から2006年までの希少な鳥類の飛来記録と希少な繁殖記録について. 「南島文化」沖縄国際大学南島文化研究所紀要第30号 : 127-144.

高原建二 2008. 宮古諸島の鳥類研究史と鳥類相について. 宮古の自然と文化第2集. 宮古の自然と文化を考える会編. ボーダーインク. p.45-55.

高原建二・比嘉邦昭・山城勇人・盛長容子 2011. 久米島における最近の鳥類記録および傷病鳥の保護記録について. 久米島自然文化センター紀要11 : 15-36.

宇山大樹 2011. 野鳥の記録与那国島. 文一総合出版. 223pp.

八重山野鳥の会編 1983. 八重山野鳥の会創立10周年記念誌. 八島印刷. 74pp.

山階芳麿 1955. 琉球列島における鳥類分布の境界線. 日本瀨物地理学会会報. 16-19:371-375.

<目録作成で参考とした文献>

文一総合出版編 1999. ボーダー 1998年写真集. 95p

池原貞雄・知念盛俊・下謝名松栄・与那城義春・千木良芳範・島村賢正・日越国昭 1985. 動物、西表島天然記念物緊急調査報告 I. 沖縄県教育委員会.

石垣金星・高原建二・花城良廣・加治工真市 2001. 西表島・鳩間島・及び新城島における動植物の方言名について. 西表島総合調査報告書, 沖縄県立博物館. p.35-59.

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 2004. 日本の野鳥 550 「山野の野鳥」改訂増補版, 文一総合出版. 383pp.

西表コツアーリズム協会編 1994. 西表ツアーリズムガイドブック「ヤマナ・カーラ・スナ・ピトリ(ヤマ・カワ・ウミ・ヒト)」。自然環境研究センター. 111pp.

真木広造・大西敏一 2000. 日本の野鳥590. 平凡社. 654pp.

各務久子・岩田郁代 1975. 西表島にアサクラサンショウクイ. 野鳥40 (12) : 8-9.

倉田篤 1966. 八重山群島西表島の鳥類. 山階鳥研報 (4) 5 (No. 25) : 90-102.

齋藤郁子・高原建二 2003. 折居彪二郎資料「琉球及び大隅列島採集日誌(1921年)」について. 沖縄地域研究所地域研究叢書第1巻. 160pp.

庄山守 1997. ハシグロヒタキ雄1, ボーダー 125号. p44

庄山守 1997. クロジョウビタキ, 日本に舞い降りた鳥類たち. ボーダー 125号. p44.

高良鉄夫 1979. 沖縄における未記録種および稀種. 山階鳥研報11(2) : 54-57

高良鉄夫・黒田長久 1968. 琉球における未記録種及び稀種. 山階鳥研報 5 (5) : 547-562.

高原建二・崎山陽一郎・庄山守・久貝勝盛・比嘉邦昭・池間幸男・山城正邦・大城亀信 1996. 八重山諸島の主要な干潟及び湿地とその周辺地域における鳥類について. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅸ「八重山湿地編」. 沖縄県環境保健部自然保護課. 1-53.

横塚眞己人 2004. 西表フィールド図鑑. 実業之日本社. 303.

琉球新報社編 1983. 写真集沖縄の野鳥. 誠文堂新光社. 62pp.

吉見光治 1992. 豊かな亜熱帯の森の仲間たち. ニライ社. 126pp.

吉見光治 1995. 西表島. 文一総合出版. 120pp.

与那城義春 2001. 西表島の鳥類調査. 西表島総合調査報告書, 沖縄県立博物館. p.21-33.

西表島の鳥類目録 (2013)

地名のないものは、観察地区が不詳のもの。

括弧内数字は、記録年または報告年。

※ (2012) は日本産鳥類目録改訂第7版より

キジ目 Order GALLIFORMES

キジ科 Family PHASIANDAE

Pavo cristatus インドクジャク
野原 (含白色型, 1999~2001), ホネラ (2000) 4~
8月

Coturnix japonica ウズラ
ミフウズラを誤認した可能性あり (1975) 冬鳥?

カモ目 Order ANSERIFORMES

カモ科 Family ANATIDAE

Dendrocygna javanica リュウキュウガモ
現状不明 (2012)※

Anser cygnoides サカツラガン
祖納 (1989), (1991) 10~11月

Anser fabalis sennirostris ヒシクイ
全域 (1992~2010) 11~3月

Anser anser rubrirostris ハイイロガン
ミナピシ・クモッタ (1988) 1月

Anser albifrons frontalis マガン
大原 (1998), 浦内川 (1999), 古見 (2003, 2010),
ミダラ (2005, 2006), 大保良田 (2010) 10月~3月

Anser erythropus カリガネ
(1998), 古見 (2003) 11月~4月

Cygnus columbianus jankowskyi コハクチョウ
美原 (2002), 祖納 (2002), ミダラ (2007) 12~1月

Tadorna tadorna ツクシガモ
古見 (1981) 1月

Anas luzonica アカツクシガモ
浦内カトウラ (2010) 1~2月

Aix galericulata オシドリ
祖納スネデ (2000), 浦内川 (2000~2007), ミダラ
(2006), 古見 (2009) 10~2月

Anas strepera strepera オカヨシガモ
(1997), 大保良田 (2003) 11月, 3月

Anas falcata ヨシガモ
内離島 (2001) 2月

Anas penelope European Wigeon ヒドリガモ
(1974), 東部域水田 (2003~2010) 10~4月

Anas platyehynchos platyehynchos マガモ
(1997~2010), 内離島10~2月

Anas poecilorhyncha zonorhyncha カルガモ
アイラ川 (1999), 仲間川 (1995, 1999), 白浜 (1990),
干立 (1997), ヨナラ (1999), 住吉 (1997) 通年

Anas clypeata ハシビロガモ
上原 (1999), カトウラ (1999), ヤッサ (2000), ス
ネデ (2003), 古見 (2004) 11~3月

Anas acuta acuta オナガガモ
ヨナラ (1999), 全域 8~3月

Anas querquedula シマアジ
古見相良 (1998), ミダラ川 (2001) 3月

Anas formosa トモエガモ
ヨナラ (1996), 北岸崎田橋 (死体, 2008) 9~10月

Anas crecca crecca コガモ
全域 (1997~2010) 10~2月

Aythya ferina ホシハジロ
浦内川 (2003), 古見相良 (2003) 11月, 3月

Aythya fuligula キンクロハジロ
(1987), 上原 (1999), 大保良田 (2008), 浦内川
(1999, 2003), 古見 (2003) 11~4月

Aythya marila mariloides スズガモ
大保良田 (エクリプス, 2009) 11月

Mergus squamatus コウライアイサ
浦内川 (含幼鳥, 1996,1997) 12~1月

カイツブリ目 Order PODICIPEDIFORMES

カイツブリ科 Family PODICIPEDIDAE

Tachybaptus ruficollis poggei カイツブリ
(含死体, 1995~2010) 10~3月

Podiceps cristatus cristatus カンムリカイツブリ
(1979) 2月

ネットアイチヨウ目 Order PHAETHONTIFORMES

ネットアイチヨウ科 Family PHAETHONTIDAE

Phaethon rubricauda rothschildi アカオネットアイチヨウ

仲の神島 (1978, 1985) 7月
Phaethon lepturus dorotheae シラオネツタイチヨウ
鳩離島 (1975) 8月

ハト目 Order COLUMBIFORMES
ハト科 Family COLUMBIDAE

Columba janthina stejnegeri ヨナグニカラスバト
全域 (1995~2010) 通年
Streptopelia orientalis stimpsoni リュウキュウキジバト
全域, 鳩離島 通年
Streptopelia tranquebarica hunilis ベニバト
(1975~1981), 古見 (1988), ヤッサ (1996), 後港
橋 (1997), シイラ橋 (2003), 美原ヨナラ (2003),
ミダラ (2004), ミナピシ (2008), 南風見田 (2008)
4~11月
Streptopelia chinensis カノコバト
祖納 (2008) 9月
Chalcophaps indica yamashinai キンバト
全域 通年
Sphenurus formosae medoximus チュウダイズアカアオバト
全域 通年
Ptilinopus leclancheri クロアゴヒメアオバト
(死体, 2004) 8月 台風による迷鳥

ミズナギドリ目 Order PROCELLARIIFORMES
アホウドリ科 Family Diomedidae

Diomedea albatrus クロアシアホウドリ
仲の神島 (2012)*

ミズナギドリ科 Family PROCELLARIIDAE

Pterodroma hypoleuca シロハラミズナギドリ
仲の神島 (1982), 大富 (死体, 2006) 2月
Calonectris leucomelas オオミズナギドリ
(1995~2010), 仲の神島 (1985, 1988) 3月, 7月
Puffinus tenuirostris ハシボソミズナギドリ
大原 (2003) 6月
Bulweria bulwerii アナドリ
西表島沖 (1998), (2000) 3月

ウミツバメ科 Family HYDEROBATIDAE

Oceanodroma monorhis ヒメクロウミツバメ
鹿野川 (1993), 白浜 (1997), 網取 (2001) 8月~
11月 いずれも保護翌日に衰弱死

コウノトリ目 Order CICONIIFORMES
コウノトリ科 Family CICONIIDAE

Ciconia nigra ナベコウ
(1921, 1978), 網取 (1964), 由布島 (1965) 11~
1月
Ciconia ciconia コウノトリ
(1980), 大原 (1992), 野崎 (1994), 干立 (2008),
野原~古見 (2008~2009), 船浮 (2009) 11~4月

カツオドリ目 Order SULIFORMES
ゲンカンドリ科 Family FREGATIDAE

Fregata minor minor オオゲンカンドリ
仲の神島 (2012)*
Fregata ariel ariel コゲンカンドリ
(1977, 1980), ヒナイビーチ (1997), 仲間川
(1999, 2000), シイラ川 (2007) 迷鳥

カツオドリ科 Family SULIDAE

Sula dactylatra personata アオツラカツオドリ
仲の神島 (1965), 鳩間水道 (1997), 由布島 (2008)
7~9月
Sula sula rubripes アカアシカツオドリ
仲の神島 (1973~1976) 5~6月
Sula leucogaster plotus カツオドリ
仲の神島 (1985~2010) 7月

ウ科 Family PHALACROCOPACIDAE

Phalacrocorax carbo カワウ
仲間川 (1995), 西表島 (2000) 12月
Phalacrocorax capillatus ウミウ
(1978) 11月

ペリカン目 Order PELECANIFORMES

ペリカン科 Family PELECANIDAE

Pelecanus onocrotalus Eastern モモイロペリカン
(1979), 大原 (1967), 古見 (1981), 美原～石見
(1987) 1～4月

サギ科 Family ARDEIDAE

Botaurus stellaris stellaris サンカノゴイ
(1978), 千立 (2004) 10月, 3月
Ixobrychus sinensis ヨシゴイ
(1976, 1980) 9月, 11月
Ixobrychus eurhythmus オオヨシゴイ
(1976) 11月
Ixobrychus cinnamomeus リュウキュウヨシゴイ
白浜 (1990), 全域 (1995～2010) 通年
Nycticorax goisagi ミゾゴイ
千立 (2007) 12月
Gorsachius melanolophus melanolophus ズグロミゾゴイ
千立 (1987), 全域 (1995～2010) 3月
Nycticorax nycticorax nycticorax ゴイサギ
住吉 (1990), 全域 (1995～2010) 10～12月, 通年
Butorides striatus amurensis ササゴイ
全域 (1995～2010) 10～4月
Ardeola bacchus アカガシラサギ
浦内 (1997), 全域 (1995～2010) 11～5月
Bubulcus ibis coromandus アマサギ
住吉 (1990), 全域 (1995～2010) 通年
Egretta alba modesta チュウダイサギ
住吉 (1990), 全域 (1995～2010) 10～4月
Egretta intermedia intermedia チュウサギ
全域 (1995～2010) 10～4月
Egretta garzetta garzetta コサギ
全域 (1995～2010) 10～4月
Egretta eulophotes カラシラサギ
(1982) 4月
Egretta sacra sacra クロサギ
住吉 (含白色型, 1990), 全域海岸 (1995～2010) 通年
Ardea cinerea jouyi アオサギ
白浜 (1990), 全域 (1995～2010) 10～4月 (まれに
夏)

Ardea purpurea manilensis

ムラサキサギ

全域 (1990～2010) 通年

トキ科 Family THRESKIORNITHIDAE

Threskiornis melanoccephalus クロトキ
大原 (1967), 古見 (1981), 美原～石見 (1987) 1
～3月

Platalea leucorodia major ヘラサギ
上原 (2002), 仲間川 (2004), ヤッサ (2004), シイ
ラ川 (2007) 1～3月, 6月

Platalea minor クロツラヘラサギ
全域 (1967, 1999～2009) 9～5月

ツル目 Order GRUIFORMES

ツル科 Family GRUIDAE

Grus leucogeranus ソデグロツル
ヨナラ (2008～2009) 11～4月

Grus monacha ナベヅル
大保良田 (2010)

クイナ科 Family RALLIDAE

Coturnicops noveboracensis exquisitus シマクイナ
古見 (1998) 2月

Rallina eurizonoides sepiaria オオクイナ
全域 (1985～2010) 通年

Amauornis phoenicurus chinensis シロハラクイナ
全域 (1990～2010) 通年

Porzana pusilla pusilla ヒメクイナ
(1995)

Porzana fusca erythrothorax ヒクイナ
(2012) 冬鳥?

Porzana fusca phaeopyga リュウキュウヒクイナ
全域 (1988, 1995～2010) 通年

Gallinula cinerea ツルクイナ
上原 (1989), 全域 (1995～2010) 通年

Gallinula chloropus バン
住吉 (1990), 全域 (1995～2010) 通年

Fulica atra オオバン
住吉 (1988), 全域 (1995～2010) 11～3月

カッコウ目 Order CUCULIFORMES

カッコウ科 Family CUCULIDAE

<i>Centropus bengalensis</i>	バンケン
豊原 (2003), 浦内カトゥラ (2004) 12月, 2月	
<i>Clamator coromandus</i>	カンムリカッコウ
(1990)	
<i>Eudynamys scolopacea</i>	オニカッコウ
(1970) 10月	
<i>Cuculus fugax</i>	ジュウイチ
(2012)*	
<i>Clamator poliocephalus poliocephalus</i>	ホトトギス
全域 (1995~2010) 5~7月, 9月	
<i>Cuculus saturatus horsfieldi</i>	ツツドリ
大原 (2006, 2007) 9~10月	

ヨタカ目 Order CAPRIMULGIFORMES

ヨタカ科 Family CAPRIMULGIDAE

<i>Caprimulgus undicus jotaka</i>	ヨタカ
上原 (1998), 古見 (2001), 浦内クモッタ (2002) 4月, 10~11月	

アマツバメ目 Order APODIFORMES

アマツバメ科 Family APODIDAE

<i>Hirundapus caudacutus caudacutus</i>	ハリオアマツバメ
南風見田 (1997) 9月	
<i>Apus pacificus kurodae</i>	アマツバメ
大富 (2004) 5月	
<i>Apus affinis subfurcatus</i>	ヒメアマツバメ
(2012)*	

チドリ目 Order CHARADRIIFORMES

チドリ科 Family CHARADRIIDAE

<i>Vanellus cinereus</i>	ケリ
住吉 (1988), 全域 (1995~2010) 10~4月	
<i>Vanellus vanellus</i>	タゲリ
豊原 (1969), 全域 (1995~2010) 10~3月	
<i>Pluvialis fulva</i>	ムナグロ
全域 (1990~2008) 8~11月, 4月	

<i>Pluvialis squatarola</i>	ダイゼン
仲間川 (1995, 2000) 12月, 5月	
<i>Charadrius placidus japonicus</i>	イカルチドリ
(1974), 古見 (1996), ミダラ (2008) 2月, 7~9月	
<i>Charadrius dubius curonicus</i>	コチドリ
ミダラ (1996, 2000), ホネラ (2000), 大保良田 (2003), 古見 (2007), 大富 (2010) 8~10月, 4月	
<i>Charadrius alexandrinus japonensis</i>	シロチドリ
全域 (1995~2010) 10~4月	
<i>Charadrius mongolus stegmanni</i>	メダイチドリ
仲間川 (1995, 2001), シイラ川 (2003) 8~12月	
<i>Charadrius leschenaultii</i>	オオメダイチドリ
仲間川 (1995, 1996), 大原 (1999), シイラ川 (2003) 9~10月, 4月	
<i>Charadrius veredus</i>	オオチドリ
上原 (1999), 住吉 (2008)	

ミヤコドリ科 Family HAEMATOPODIDAE

<i>Haematopus ostralegus oscularis</i>	ミヤコドリ
大原 (1991) 12月	

セイタカシギ科 Family RECURVIROSTROSTRIDAE

<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	セイタカシギ
全域 (1995~2010) 8~4月	
<i>Hecurvirostra avosetta</i>	ソリハシセイタカシギ
古見 (2005), 浦内川 (2005), ミナピシ~クモッタ (2009), 大保良田 (2009) 12~4月	

シギ科 Family SCOLOPACIDAE

<i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ
(1990, 1993), 全域 (1995~2010) 10~3月	
<i>Gallinago solitaria japonica</i>	アオシギ
(2012)*	
<i>Gallinago hardwickii</i>	オオジシギ
(2012)*	
<i>Gallinago gallinago gallinago</i>	タシギ
大原 (1996), 干立 (1997), ヨナラ川 (2008) 9~3月	

<i>Gallinago stenura</i> (2012)*	ハリオシギ	<i>Calidris alba</i> 船浦 (2009) 11月	ミユビシギ
<i>Gallinago megala</i> 祖納 (1998), 古見 (2008), 千立 (死体, 2008) 9 ~10月	チュウジシギ	<i>Calidris ruicollis</i> 仲間川 (1995), 古見 (1996) 9月	トウネン
<i>Limosa limosa melanuroides</i> 住吉 (1996), ミナピシ・カトウラ (2007) 4~5, 8 月	オグロシギ	<i>Calidris subminuta</i> 大富 (1997, 1998), 古見アイラ (2003), 大保良田 (2003) 8~10月	ヒバリシギ
<i>Numerius minutus</i> 祖納 (1999), 大原 (2008) 3~4月	コシャクシギ	<i>Calidris acuminata</i> 浦内川 (2007), (2008) 8~10月, 4月	ウズラシギ
<i>Numerius phaeopus variegatus</i> 全域 (1995~2010) 通年	チュウシャクシギ	<i>Calidris temminckii</i> (1978), 大保良田 (2003) 10月	オジロトウネン
<i>Numerius arquata orientalis</i> 仲間川 (1995, 2001, 2002), 中野 (1996), 船浦 (1998, 2003) 9月, 1~5月	ダイシャクシギ	<i>Calidris ferruginer</i> (1982), 東部 (2007) 4~5月	サルハマシギ
<i>Numerius madagascariensis</i> 由布島 (1997), 仲間川 (2009) 2~3月	ホウロクシギ	<i>Calidris alpina sakhalina</i> 全域 (1995~2010) 9~4月	ハマシギ
<i>Tringa erythropus</i> (1978), 仲間川 (2003) 3月, 7月	ツルシギ	<i>Limicola falcinellus sibirica</i> (1982), ミダラ (1996) 5月, 8月	キリアイ
<i>Tringa totanus ussuriensis</i> 東部域 (1996~2008) 8~1月, 6月	アカアシシギ	<i>Philomachus pugnax</i> 大保良田 (幼鳥, 2003) 10月	エリマキシギ
<i>Tringa stagnatilis</i> 全域 (1996~2006) 9~6月	コアオアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i> 船浦 (2001) 1月	アカエリヒレアシシギ
<i>Tringa nebularia</i> 全域 (1995~2010) 8~5月	アオアシシギ	レンカク科 Family JACANIDAE	
<i>Tringa guttifer</i> (1982) 5月	カラフトアオアシシギ	<i>Hydrophasianus chirurgus</i> (1980), ミナピシ (1996), ヨナラ (2003) 5月, 10~11月	レンカク
<i>Tringa ochropus</i> 全域 (1995~2010) 8~3月	クサシギ	タマシギ科 Family ROSTRATULIDAE	
<i>Tringa glareola</i> 全域 (1995~2010) 4月, 8月に多い (旅鳥)	タカブシギ	<i>Rostratula benghalensis benghalensis</i> 仲間川 (2007) 4月	タマシギ
<i>Heteroscelus brevipes</i> 全域 (1995~2010) 8~10月に多い (旅鳥)	キアシシギ	ミフウズラ科 Family TURNICIDAE	
<i>Xenus cinereus</i> 全域 (1995~2003) 5月 (繁殖), 8~10月 (旅鳥)	ソリハシシギ	<i>Turnix suscitator okinavensis</i> 大原 (1987), 全域 (1995~2010) 通年	ミフウズラ
<i>Actitis hypoleucos</i> 全域 (1995~2010) 9~5月	イソシギ	ツバメチドリ科 Family GLAREOLIDAE	
<i>Arenaria interpres interpres</i> 仲間川 (1995, 2001), マイラ川 (1997), 大原 (1999), シイラ川 (2003) 8~12月	キョウジョシギ	<i>Grareola maldivarun</i> 住吉 (1987~2010), 大原 (1996~2008), 浦内 (2000),	ツバメチドリ
<i>Calidris tenuirostris</i> シイラ川 (2003), 浦内川 (2007) 8月, 4月	オバシギ		

祖納～千立 (2003) 3～4月, 11月

カモメ科 Family SCOLOPACIDAE

Anous stolidus pullus リュキュウクロアジサシ
仲の神島 (1981), 上原星砂の浜 (2001), 大原沖海上 (2002) 5, 7, 9月

Anous minutus marculsi ヒメクロアジサシ
(2012)*

Rissa tridactyla ミツユビカモメ
上原 (1983), 船浦 (ミサゴに捕らえられた個体, 1998)

Larus ridibundus ユリカモメ
祖納スネデ (若鳥, 1996), 大原 (2009) 11月, 3月

Larus saundersi ズグロカモメ
仲間川 (1996)

Larus crassirostris ウミネコ
船浦 (死体, 2010) 2月

Larus hyperboreus pallidissimus シロカモメ
(2012)

Larus argentatus vegae セグロカモメ
仲間川 (1995), 船浦 (含幼鳥, 1999) 11～12月

Gelochelidon nilotica ハシブトアジサシ
浦内カトウラ (2007) 10月

Sterna caspia caspia オニアジサシ
仲間川 (2003, 2010) 4～5月

Thalasseus bergii cristatus オオアジサシ
大原 (1997), 船浮 (1999), ウ離島 (含若鳥, 2001), 高那 (2002) 7～8月

Sterna dougalli bangsi ベニアジサシ
網取, ウ離島, 鳩離島 (1995～2010) 4～9月, 繁殖

Sterna sumatrana エリグロアジサシ
網取, ウ離島, 鳩離島 (1995～2010) 5～9月, 繁殖

Sterna anaethetus anaethetus マミジロアジサシ
仲の神島 (1983), 大原沖海上 (2002) 5月

Sterna fuscata nubilosa セグロアジサシ
仲の神島 (1981) 7月, 繁殖

Sterna albifrons sinensis コアジサシ
宇奈利崎 (1997), 仲間 (2003), バラス島 (2006) 5～6月, 9月

Chlidonias leucoptera ハジロクロハラアジサシ

上原星砂の浜 (1996), 住吉 (2000), 仲間川 (2003), 美原 (2003) 5～6月, 10月

Chlidonias hybridus javanicus クロハラアジサシ
(1993), 全域 (1995～2010) 4～11月

Sterna hirundo アジサシ
(2012)

トウゾクカモメ科 Family STERCORARIIDAE

Stercorarius pomarinus トウゾクカモメ
住吉中野海岸 (2002) 12月

ウミスズメ科 Family ALCIDAE

Synthliboramphus antiquus ウミスズメ
高那海岸 (死体, 2007) 1月

Synthliboramphus wumizusume カンムリウミスズメ
(死体, 2012)*

タカ目 Order ACCIPITRIFORMES

ミサゴ科 Family PANDIONIDAE

Pandion haliaetus haliaetus ミサゴ
全域 (1995～2010) 11～3月, 夏

タカ科 Family ACCIPITRIDAE

Pernis ptilorhyncus ハチクマ
ヤッサ (2006, サシバと混群) 10月

Elanus caeruleus カタグロトビ
(2004)

Milvus migrans lineatus トビ
全域 (1976～2010)

Haliaeetus albicilla albicilla オジロワシ
大富 (1978), 仲の神島, サバ崎, 網取 (1999) 11月, 5～8月

Aegypius monachus クロハゲワシ
船浦 (1967), ウ離島 (2000) 12月, 5～6月

Spilornis cheela perplexus カンムリワシ
全域 (1990～1997) 通年

Circus spilonotus spilonotus チュウヒ
千立クモッタ (1998), 船浦 (2001) 1月, 11月

Circus cyaneus cyaneus ハイイロチュウヒ
全域 (1969, 1996~2000) 9~2月

Circus melanoleucos マダラチュウヒ
全域 (1984~2008) 2~5月, 9月, 12月 旅鳥

Accipiter soloensis アカハラダカ
全域 (1982, 1995~2010) 9~10月 旅鳥

Accipiter gularis iwasakii リュウキュウツミ
全域 通年 3~5月によく鳴く

Accipiter nisus nisosimilis ハイタカ
住吉 (含若鳥, 1997~2003) 3月

Accipiter gentilis fujiyamae オオタカ
全域 (1980~1982, 1999~2010) 1~4月

Butastur indicus サシバ
大原 (1997), 月が浜 (鳴き声, 1990), 浦内 (1990),
中野 (1990), 全域 (1995~2010) 10~4月 おもに
旅鳥

Buteo buteo japonicus ノスリ
内離島 (2000), 浦内カトゥラ (2003), 祖納ミダラ
(2003~2004), 千立 (2008), 美原 (2010) 11~3月

Aquila heliaca heliaca カタジロワシ
マイラ川 (1967) 8月

フクロウ目 Order STRIGIFORMES
メンフクロウ科 Family TYTONIDAE

Tyto longimanus ヒガシメンフクロウ
(死体, 1975) 5月

フクロウ科 Family STRIGIDAE

Otus lempiji pryeri リュウキュウオオコノハズク
古見 (1996~2001), 高那 (1997, 2004), 船浮 (2001)
12~4月, 8月

Otus scops japonica コノハズク
(2012)*

Otus elegans elegans リュウキュウコノハズク
全域 (1990~2010) 通年

Ninox scutulata japonica アオバズク
西表島 (2012)*

Ninox scutulata totego リュウキュウアオバズク
全域 (1995~2010) 通年

Asio otus otus トラフズク

(1978), 船浮 (1999), 祖納 (1999) 11月

Asio flammeus flammeus コミミズク
(1976) 11月

サイチョウ目 Order BUCEROTIFORMES
ヤツガシラ科 Family UPUPIDAE

Upupa epops saturata ヤツガシラ
赤離島 (1993), 全域 (1995~2010) おもに3月, ま
れに秋~冬

ブッポウソウ目 Order CORACIIFORMES
カワセミ科 Family ALCEDINIDAE

Halcyon coromanda bangsi リュウキュウアカショウビン
全域 (1990~2010) 3~11月, まれに越冬

Halcyon smyrnensis アオショウビン
仲間 (1998), 月が浜 (1998), 豊原 (2003) 3~4月

Halcyon pileata ヤマショウビン
全域 (1994~2010) 4~5月, 9~10月 旅鳥

Halcyon chloris chloris ナンヨウショウビン
東部域 (1985~2008) 11~4月, 8月

Alcedo atthis bengalensis カワセミ
全域 (1995~2010) 通年

ブッポウソウ科 Family CORACIIDAE

Eurystomus orientalis calonyx ブッポウソウ
全域 (1997~2005) 5~9月

キツツキ目 Order PICIFORMES

キツツキ科 Family PICIDAE

Dendrocopos kizuki orii オリイコゲラ
全域 通年

ハヤブサ目 Order FALCONIFORMES

ハヤブサ科 Family FALCONIDAE

Falco naumanni ヒメチョウゲンボウ
(1984), 中野 (2000) 3月, 10月

Falco tinnunculus interstinctus チョウゲンボウ

大原 (1969), 全域 (1990, 1995~2010) 9~4月
Falco amurensis アカアシチョウゲンボウ
(1987) 4月

Falco columbarius コチョウゲンボウ
豊原 (1998), ミダラ (2003), 大富 (2003), 古見
(2004) 12~2月

Falco peregrinus japonensis ハヤブサ
住吉 (1990), 全域 (1995~2010) 11~3月

Falco subbuteo subbuteo チゴハヤブサ
船浦 (1992), 北岸インダ (2000), 大富 (2003) 10
~1月

スズメ目 Order PASSERIFORMES

モリツバメ科 Family ARTAMIDAE

Artamus leucorhynchus leucorhynchus モリツバメ
(1973), (1986) 3~4月

サンショウクイ科 Family CAMPEPHAGIDAE

Coracina melaschistos アサクラサンショウクイ
(1975) 3月

Pericrocotus divaricatus divaricatus サンショウクイ
(2012)

Pericrocotus divaricatus リュウキュウサンショウクイ
全域 (1990~2010) 通年

コウライグイス科 Family ORIOLIDAE

Oriolus chinensis diffusus コウライグイス
千立 (1988) 5月

オオチュウ科 Family DICRURIDAE

Dicrurus macrocercus オウチュウ
全域 (1976, 1996~2010) 2~5月

Dicrurus leucophaeus leucogenis ハイイロオウチュウ
仲間 (1997, 2009), 大原 (2002), 大保良田 (2009)
11月, 2~4月

カササギヒタキ科 Family MONARCHIDAE

Terpsiphone atrocaudata illex リュウキュウサンコウチョウ
全域 (1990~2010) 4~9月

モズ科 Family LANIIDAE

Lanius bucephalus bucephalus モズ
(1987), 大富 (2010) 2~3月 ※シマアカモズの
誤認の可能性あり

Lanius cristatus superciliosus アカモズ
(2012)*

Lanius cristatus lucionensis シマアカモズ
全域 (1995~2010) 9~4月

Lanius cristatus cristatus カラアカモズ
マイラ (2006), 古見 (2006) 10~11月

Lanius schach schach タカサゴモズ
(1985), 住吉 (1997~1998), 仲間 (2000~2001)
9~3月

Lanius sphenocercus オオカラモズ
北岸ゲーダ~クーラ川 (1988) 3月

カラス科 Family CORVIDAE

Corvus dauuricus コクマルガラス
高那 (1977, 1979), 浦内 (1998) 10~1月

Corvus frugilegus pastinator ミヤマガラス
(2012)*

Corvus macrorhynchos osai オサハシフトガラス
全域 (1990~2001) 通年

シジュウカラ科 Family PARIDAE

Parus varius olivaceus オリイヤマガラ
全域 (1985, 1995~2010) 通年

Parus major nigriloris イシガキシジュウカラ
全域 (1990, 1995~2010) 通年

ヒバリ科 Family ALAUDIDAE

Alauda arvensis japonica ヒバリ
(2012)*

ツバメ科 Family HIRUNDINIDAE

Hirundo rustica gutturalis ツバメ
仲間川 (1995) 3～4月, 8～9月がピーク, 12月

Hirundo rustica tytleri アカハラツバメ
大原

Hirundo daurica コシアカツバメ
祖納 (1996), ミダラ (1999～2000), 古見 (2010)
10～11月, 6月

Hirundo tahitica namiyei リュウキュウツバメ
全域 (1995～2010) 1990年代後半は春と秋, 2010に
は繁殖確認, 通年

Delichon urbica dasypus イワツバメ
ミダラ (1999, 2000) 11月

ヒヨドリ科 Family PYCNONOTIDAE

Pycnonotus sinensis orii ヤエヤマシロガシラ
全域 (1969, 1990～2008) 通年

Hypsipetes amaurotis ヒヨドリ
(2012)*

Hypsipetes amaurotis stejnegeri イシガキヒヨドリ
全域 (1990, 1995～2010) 通年

ウグイス科 Family SYLVIIDAE

Cettia diphone cantans ウグイス
全域 (1995～2010) 1～3月 1995～2010

Cettia canturians borealis チョウセンウグイス
(2012) 冬鳥

Urosphena squameiceps ヤブサメ
古見 (1998) 1月

ムシクイ科 Family PHYLLOSCOPIDAE

Phylloscopus fuscatus fuscayus ムジセッカ
月が浜 (1988), 祖納 (1994), 船浦 (2002) 12～3月

Phylloscopus schwarzi カラフトムジセッカ
浦内 (1996) 3月

Phylloscopus inornatus inornatus キマユムシクイ
大原 (1969), 白浜 (1999), アーラ (1999), 祖納
(2002), 船浦 (2002, 2004) 12～3月

Phylloscopus proregulus proregulus カラフトムシクイ
嘉弥真島 (1996) 12月 (新報)

Phylloscopus borealis kennicotti アメリカコムシクイ
八重山諸島 (2012)

Phylloscopus borealis xanthodryas メボソムシクイ
(1978, 1993), 浦内 (2002), 大原 (2003) 10～12
月, 2月

Phylloscopus ijimae イイジマムシクイ
(1977) 9月

メジロ科 Family ZOSTEROPIDAE

Zosterops japonica ryuukyuenis リュウキュウメジロ
全域 (1990) 通年

センニュウ科 Family LOCUSTELLIDAE

Locustella ochotensis シマセンニュウ
(1982) 2月

ヨシキリ科 Family ACROCEPHALIDAE

Acrocephalus arundinaceus orientalis オオヨシキリ
(1994)

セッカ科 Family CISTICOLIDAE

Cisticola juncidis bruniceps セッカ
浦内 (1990), 上原 (1990), 全域 (1995～2010) 通
年

レンジャク科 Family BOMBYCILLIDAE

Bombycilla garrulus centralasiae キレンジャク
全域 (1997) 1～3月

Bombycilla japonica ヒレンジャク
全域 (1997, 2002, 2007) 1～4月

ムクドリ科 Family STURNIDAE

Sturnus sturninus シベリアムクドリ
豊原 (2001) 5月

Sturnus sericeus ギンムクドリ
(1994～2010) 11～4月

<i>Sturnus philippensis</i>	コムクドリ	竹富島 (1979, 1989), 内陸森林部 (1985~2010) 9~3月
(1983~2010) 3~4月, 9~10月	旅鳥	
<i>Sturnus cineraceus</i>	ムクドリ	<i>Luscinia svecica</i>
全域 (1988, 1995~2010) 10~4月		オガワコマドリ (2012)*
<i>Sturnus sinensis</i>	カラムクドリ	<i>Luscinia calliope</i>
全域 (1995~2010) 1~3月, 9~11月		ノゴマ 全域 (1987, 1998~2010) 11~4月
<i>Sturnus vulgaris</i>	ホシムクドリ	<i>Tarsiger cyanurus cyanurus</i>
住吉 (2001), 野原 (2006), 大原 (2010) 10月, 2~3月		ルリビタキ (1974), 白浜 (1998), 古見 (2003) 9月, 1~2月
		<i>Phoenicurus ochruros rufiventris</i>
		クロジョウビタキ 干立クモッタ (1996) 4月
		<i>Phoenicurus aureus aureus</i>
		ジョウビタキ 上原 (1987), 全域 (1995~2010) 10~4月
		<i>Saxicola torquata stejnegeri</i>
		ノビタキ 全域 (1987~2010) 10~4月
		<i>Saxicola ferrea haringtoni</i>
		ヤマザキヒタキ (1983) 4月 迷鳥
		<i>Oenanthe oenanthe</i>
		ハシグロヒタキ 浦内クモッタ (1996), 上原 (2003) 4~5月
		<i>Monticola solitarius philippensis</i>
		イソヒヨドリ 全域 近年繁殖 通年
		<i>Monticola solitarius pandoo</i>
		アオハライソヒヨドリ ホネラ (2009) 4月
		<i>Monticola gularis</i>
		ヒメイソヒヨ (1986) 2月 迷鳥
		<i>Monticola saxatilis</i>
		コシジロイソヒヨドリ 上原 (1997) 9月
		<i>Ficedula zanthopygia</i>
		マミジロキビタキ (1977), 白浜 (2004) 11月
		<i>Ficedula narcissina</i>
		キビタキ (2012)*
		<i>Ficedula narcissina owstoni</i>
		リュウキュウキビタキ 森林部全域 (1990, 1995~2010) 通年 3~6月にさえずり多い
		<i>Ficedula mugimaki</i>
		ムギマキ (1973, 1977), 干立 (2001), 白浜 (2004) 3~4月11月
		<i>Cyanoptila cyanomelana cyanomelana</i>
		オオルリ 大富 (1999) 3月
		<i>Muscicapa griseisticta</i>
		エゾビタキ 全域 (1995~2010) 9~10月, 4月 旅鳥
		<i>Muscicapa sibirica</i>
		サメビタキ (1994)
ヒタキ科 Family MUSCICAPIDAE		
<i>Turdus sibiricus</i>	マミジロ	
(2012)*		
<i>Zoothera dauma aurea</i>	トラツグミ	
大原~古見 (1969), 白浜 (1999), (1995~2010) 11~3月, まれに4月		
<i>Zoothera dauma iriomotensis</i>	コトラツグミ	
祖納 (1921, 1936: 幼鳥, パラタイプ, 折居彪二郎, 1984: ♂パラタイプ, 庄山守), 大原 (1967: ♂ホロタイプ, 土屋公幸), (1972) 1月, 3月, 7月, 11月		
<i>Turdus hortulorum</i>	カラアカハラ	
(2012)*		
<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	
鳩間島 (2012)		
<i>Turdus merula mandarinus</i>	クロウタドリ	
全域 (1993~2008) 2~3月, 12月		
<i>Turdus chrysolais chrysolais</i>	アカハラ	
大原 (1969), 全域 (1995~2010) 11~4月		
<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ	
全域 (1990~2010) 11~4月		
<i>Turdus obscurus</i>	マミチャジナイ	
古見 (2002, 2006) 2月, 12月		
<i>Turdus ruficollis ruficollis</i>	ノドアカツグミ	
(2003) 1月		
<i>Turdus naumanni eunomus</i>	ツグミ	
大原 (1992), 全域 (1995~2010) 11~3月		
<i>Turdus naumanni naumanni</i>	ハチジョウツグミ	
干立 (2001), 住吉 (2001), 中野 (2001), 大富 (2003), 高那 (2003) 11~3月		
<i>Erithacus komadori komadori</i>	アカヒゲ	

Muscicapa dauurica dauurica コサメビタキ
賀陽山 (1992), 古見 (1998), 大原 (2002) 1月,
4月, 9月

スズメ科 Family PASSERIDAE

Passer rutilans ニュウナイスズメ
大富 (2001) 12月
Passer montanus スズメ
大原 (1988), 全域 通年

セキレイ科 Family MOTACILLIDAE

Motacilla flava flava ツメナガセキレイ
(1995~2010) 9~11月
Motacilla flava macronyx キタツメナガセキレイ
祖納 (1996) 10月
Motacilla flava taivana キマユツメナガセキレイ
住吉 (1996), 北岸ヨシケラ (2000), 美原 (2004),
ミダラ (2006) 9~11月
Motacilla cinerea robusta キセキレイ
西部域 (1990), 仲間川 (1995) 9~11月, 少数越冬
Motacilla grandis セグロセキレイ
祖納 (1965), 浦内 (1965, 1999) 8月, 5月
Motacilla alba lugens ハクセキレイ
仲間川 (1995) 10月
Motacilla alba leucopsis ホオジロハクセキレイ
(2012)*
Motacilla alba baicalensis シベリアハクセキレイ
大原 (2000), ヨナラ (2000), 白浜 (2005) 2~3月
Motacilla alba personata メンガタハクセキレイ
(2009) 3月
Anthus novaeseelandiae sinensis マミジロタヒバリ
住吉 (1987, 1997), 仲間川 (1995), ウブアッタ
(1996), 仲間崎 (2008) 10月, 1~3月
Anthus godlewskii コマミジロタヒバリ
住吉 (1997, 2000) 3月, 10月
Anthus hodgsoni hodgsoni ビンズイ
全域 (1997~2005) 11~3月
Anthus gustavi gustavi セジロタヒバリ
(1921), 住吉 (1995), ミダラ (2006) 9~11月
Anthus cervinus ムネアカタヒバリ

全域 (1969, 1987, 1996~2009) 10~4月

Anthus spinoletta japonicus タヒバリ
(1987), 船浮 (2000) 3月, 10月

アトリ科 Family FRINGILLIDAE

Carduelis montifringilla アトリ
住吉 (1988, 1998), 浦内 (2005), 大原 (2006), 大
保良田 (2010), 上原 (2010) 3~4月, 10~11月
Carduelis sinica minor カワラヒワ
古見 (1997) 1月
Carduelis spinus マヒワ
大原 (1969), 大原 (1988), 大富 (1996), 祖納
(1996~2000), 古見 (2002) 11月~3月
Eophona migratoria migratoria コイカル
(1993), 大富 (1995, 2001), 大原 (1998, 2000)
9月, 11~1月
Eophona personata personata イカル
(1993), 大原 (1996~2004), 高那 (2002), 住吉
(2004) 9~2月, 4月
Coccothraustes coccothraustes japonicus シメ
(1987), 古見 (1997, 1999), 船浮 (1999), 浦内
(2000) 11月, 1~4月

ホオジロ科 Family EMBERIZIDAE

Melophus lathamii レンジャクノジロ
(1987) 5月 迷鳥, 国内初記録
Emberiza cioides ciopsis ホオジロ
(1974), 祖納 (2001)
Emberiza tristrami シロハラホオジロ
浦内 (2010) 3月
Emberiza fucata fucata ホオアカ
住吉 (1988), 豊原 (2006) 3月, 11月
Emberiza pusilla コホオアカ
(1980), 美原 (2002), 浦内 (2002), ミダラ (2004),
野原 (2006), アーラ (2009) 2~4月, 10月
Emberiza chrysophrys キマユホオジロ
(1980), 大原 (2009), 大富 (2010) 3~4月, 11月
Emberiza rustica カシラダカ
浦内 (死体, 2005)
Emberiza elegans elegans ミヤマホオジロ

住吉 (1988), 古見 (1998), 上原 (2002), 大原
(2009~2010) 11~3月

Emberiza aureola ornata シマアオジ
(1980), 祖納 (2001) 4~5月

Emberiza rutila シマノジコ
(1980) 4月

Emberiza sulphurata ノジコ
(1979), 浦内カトウラ (1996), 大富 (1998) 10~
1月

Emberiza spodocephala personata アオジ
住吉 (1990), 船浮 (2000), ミダラ (2004) 11月,
4月

